

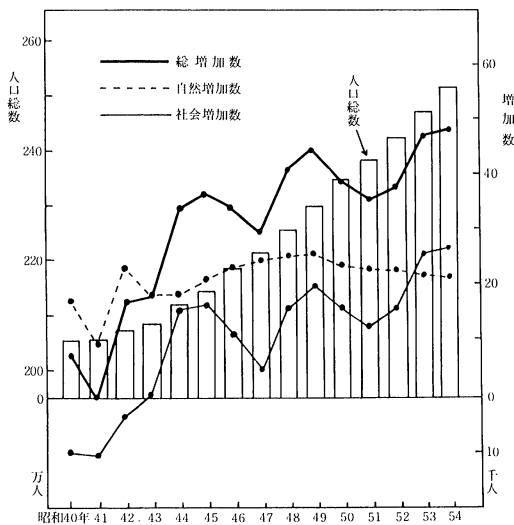
# 54年中は1日133人の割合で増加……………

## 1. 人 口

(1) 総人口の推移 ～ 本県の人口250万人を突破、全国第13位～  
茨城県における人口は、大正9年の第1回国勢調査以来昭和30年まで毎回増加を続け昭和30年～35年にかけていったん減少が見られたが、昭和35～40年には0.4%と再び増加に転じ昭和44年に210万台に達し、10年経過後の昭和54年10月1日現在の推計人口は、2,508,471人と40万人の増加となった。

なお、本県人口の全国総人口に占める割合は2.2%で全国47都道府県中13番目に位置している。面積は、6,089平方キロメートルで全国第24位の大きさで人口密度は1平方キロメートルあたり412人、全国の人口密度308人を相当数上回っており全国第13位となっている。

図一 人口と増加数の推移



### (2) 昭和54年の人口

#### ア 人口の概要 ～ 54年中は1日133人の割合で増加～

昭和55年1月1日現在の人口は、2,520,740人となり、前年同期の人口2,472,359人と比較すると48,381人増加した。この増加率は2.0%であり、1日平均133人の割合で増加している。市町村別に人口の増加数をみると、増加は16市56町村で、桜村6,263人、取手市4,493人、水戸市3,756人、牛久町3,097人、荊崎村3,036人、谷田部町

2,683人、勝田市2,681人の順に高く、反面減少は2市18町村で、水府村277人、大子町251人、里美村152人、金砂郷村114人、山方町107人、那珂湊市83人、河内村77人、緒川村75人となっている。この増加の内訳をみると、自然増加21,358人、構成比44.1%、社会増加26,696人、構成比55.2%で、過去最も多く前年に引き続き社会動態の増加を占めている。また、外国人は327人増加し、構成比0.7%であり、総数で4,955人となった。

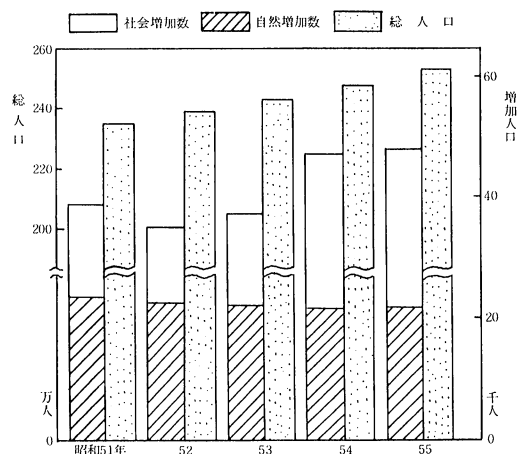
1平方キロメートル当り人口密度は、最も高い古河市で2,684人、最低の市で高萩市164人、町村の最高は大洗町958人、最低が里美村42人となっている。

表一 人口の推移 (単位：人、%)

| 年次    | 1月1日現在    | 指数  | 増加数    | 増加率 |
|-------|-----------|-----|--------|-----|
| 昭和51年 | 2,352,197 | 100 | 35,273 | 1.5 |
| 52    | 2,387,470 | 101 | 37,832 | 1.6 |
| 53    | 2,425,327 | 103 | 47,032 | 1.9 |
| 54    | 2,472,359 | 105 | 48,381 | 2.0 |
| 55    | 2,520,740 | 107 |        |     |

※ 外国人を含む。

図二 総人口の年次別推移(各年1月1日現在)



#### イ 男女別人口動態 ～ 男女比は郡部で逆転～

昭和55年1月1日現在人口2,520,740人の男女別人口をみると男1,253,622人、女1,267,118人で女が13,496人

昭和54年茨城県の人口と世帯(上)

表一 二 市郡別性比

(単位:%)

| 市 郡 | 昭和51年 | 52   | 53   | 54   | 55    |
|-----|-------|------|------|------|-------|
| 県   | 98.1  | 98.3 | 98.5 | 98.8 | 98.9  |
| 市 部 | 97.4  | 97.5 | 97.6 | 97.7 | 97.8  |
| 郡 部 | 98.8  | 99.1 | 99.5 | 99.8 | 100.1 |

※ 各年1月1日現在推計人口。

表一 三 性比の高い市町村

(単位:人,%)

| 市町村     | 性 比   | 男      | 女      |
|---------|-------|--------|--------|
| 桜 村     | 132.6 | 17,724 | 13,371 |
| 鹿 島 町   | 115.4 | 20,708 | 17,948 |
| 小 川 町   | 111.8 | 9,524  | 8,521  |
| 神 栖 町   | 109.6 | 17,209 | 15,705 |
| 総 和 町   | 107.2 | 18,453 | 17,215 |
| 東 海 村   | 107.0 | 15,076 | 14,091 |
| 谷 田 部 町 | 105.3 | 13,748 | 13,052 |
| 美 浦 村   | 103.6 | 6,887  | 6,645  |
| 勝 田 市   | 102.7 | 45,764 | 44,575 |
| 波 崎 町   | 102.3 | 17,296 | 16,907 |

※ 昭和55年1月1日現在推計人口。外国人を含む。

業団地等いわゆる地域開発に伴う人口変動の激しい町村に多い。

昭和54年中の男女別、社会動態の内訳をみると転入(男52.9%)、転出(男52.6%)ともに男の移動が上回っている。これを年齢階層別にみると15歳~24歳の階層を除き各階層とも男が女を上回っている。

また、自然動態においても出生(男51.3%)、死亡(男54.3%)とも男が上回っている。

ウ 市郡別人口 ~ 市部は自然増加、郡部は社会増加が大 ~ 昭和55年1月1日現在の市人口は1,234,771人、郡部の人口が1,285,969人となり、前年同期と比較すると市

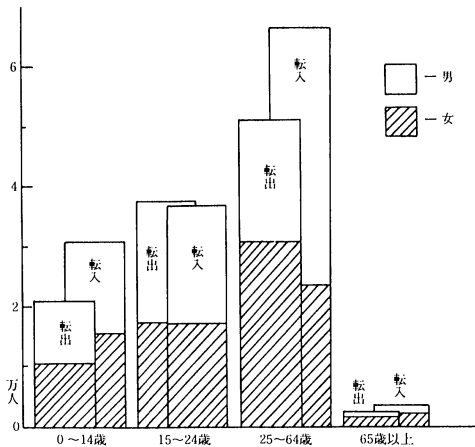
表一 四 市郡別人口の推移

(単位:人,%)

| 市 郡   | 昭和51年     | 52        | 53        | 54        | 55        |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 県 指 数 | 2,352,197 | 2,387,470 | 2,425,327 | 2,472,359 | 2,520,740 |
|       | 100       | 101       | 103       | 105       | 107       |
| 市 部   | 1,164,994 | 1,180,604 | 1,198,300 | 1,217,477 | 1,234,771 |
| 郡 部   | 1,187,203 | 1,206,866 | 1,227,027 | 1,254,882 | 1,285,969 |
| 指 数   | 49.5      | 49.5      | 49.4      | 49.2      | 49.0      |
| 指 数   | 50.5      | 50.5      | 50.6      | 50.8      | 51.0      |

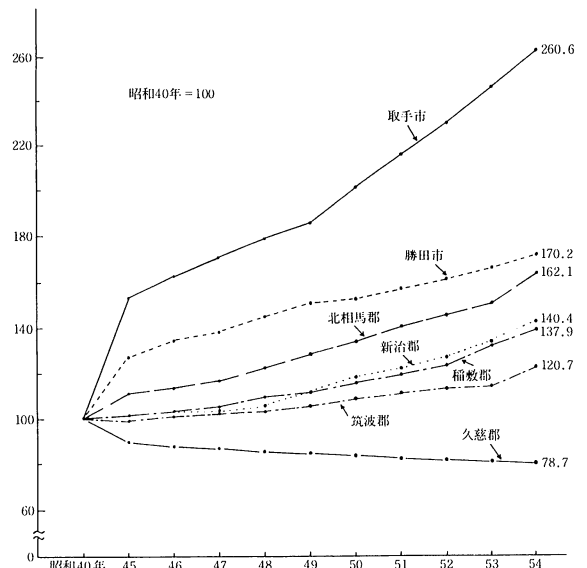
※ 各年1月1日現在推計人口。外国人を含む。

図一 三 年齢階層, 男女別社会動態



多く、性比は98.9%で年々高くなってきており、郡部における性比は100.1%である。これら性比100を超えるものが5市16町村であり、おもなものは表一三のとおりであり筑波研究学園都市、鹿島開発地帯、自衛隊基地、工

図一 四 主な市郡別人口指数



# ■ 調査から

部で17,294人、郡部で31,087人増加し、増加率は市部で1.4%、郡部で2.5%となっている。

この増加率のおもなものをみると、北相馬郡8.3%、取手市7.0%、新治郡6.6%、稲敷郡5.4%、筑波郡5.1%、勝田市2.8%の順になっており、減少地域は、久慈郡1.5%をはじめ、那珂湊市、常陸太田市の3市郡である。

人口増加の主な理由は、取手市を中心とする首都圏域としての人口流入、筑波研究学園都市の地域開発が大きな原因と思われる。水戸市の増加率は1.8%、日立市は自然増、社会減ほぼ同数で変化はみられなかった。

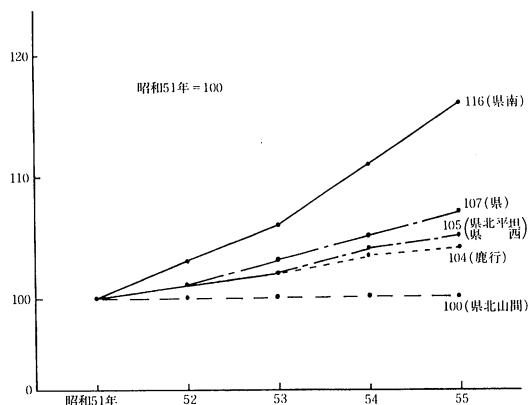
また、市部の増加内容は自然増加が69.7%、社会増加30.3%で、郡部では社会増加が69.6%、自然増加30.4%であり、郡部における社会増加が本県の人口増加の特徴といえる。

なお、外国人は、市部で130人、郡部で197人、計327人の増加となった。

## エ 地域別人口 ～ 社会増の95%は県南～

本県の行政区分を5地域に分けた人口分布割合を、昭和55年1月1日現在でみると、県北平坦30.6%と最も高

図一五 地域別人口の推移



表一五 地域別人口の推移

(単位: 人, %)

| 地 域  |        | 昭和51年     | 52        | 53        | 54        | 55        |
|------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 県    | 総 数    | 2,352,197 | 2,387,470 | 2,425,327 | 2,472,359 | 2,520,740 |
|      | 指 数    | 100       | 101       | 103       | 105       | 107       |
|      | 人口分布割合 | 100       | 100       | 100       | 100       | 100       |
| 県北平坦 | 総 数    | 731,180   | 740,456   | 750,950   | 761,588   | 770,804   |
|      | 指 数    | 100       | 101       | 103       | 104       | 105       |
|      | 人口分布割合 | 31.1      | 31.0      | 30.9      | 30.8      | 30.6      |
| 県北山間 | 総 数    | 301,416   | 302,098   | 302,315   | 302,395   | 302,461   |
|      | 指 数    | 100       | 100       | 100       | 100       | 100       |
|      | 人口分布割合 | 12.8      | 12.6      | 12.5      | 12.2      | 12.0      |
| 鹿 行  | 総 数    | 228,282   | 230,578   | 232,548   | 234,778   | 236,700   |
|      | 指 数    | 100       | 101       | 102       | 103       | 104       |
|      | 人口分布割合 | 9.7       | 9.7       | 9.6       | 9.5       | 9.4       |
| 県 南  | 総 数    | 601,123   | 617,980   | 637,210   | 664,632   | 695,983   |
|      | 指 数    | 100       | 103       | 106       | 111       | 116       |
|      | 人口分布割合 | 25.6      | 25.9      | 26.3      | 26.9      | 27.6      |
| 県 西  | 総 数    | 490,196   | 496,358   | 502,304   | 508,966   | 514,792   |
|      | 指 数    | 100       | 101       | 102       | 104       | 105       |
|      | 人口分布割合 | 20.8      | 20.8      | 20.7      | 20.6      | 20.4      |

※ 各年1月1日現在推計人口。外国人を含む。

く、次いで県南27.6%、県西20.4%、県北山間12.0%、鹿行9.4%の順となっている。

54年中の地域別の人口動態は、県南の社会増加数が25,416人で、県全体の26,696人に対して95.2%を占めている。昭和51年を100とすると55年が116と大きく伸びてきており、県全体に占める各地域の割合も県南が高くなってきている。

54年中の人口増加率は、県北山間が停滞し、県北平坦1.2%、県西1.1%、鹿行0.8%といずれも低い伸びに対し、県南が4.7%と大巾に伸びている。これは、首都圏周辺地域としての宅地開発、筑波研究学園都市への人口流入が主な原因になっている。

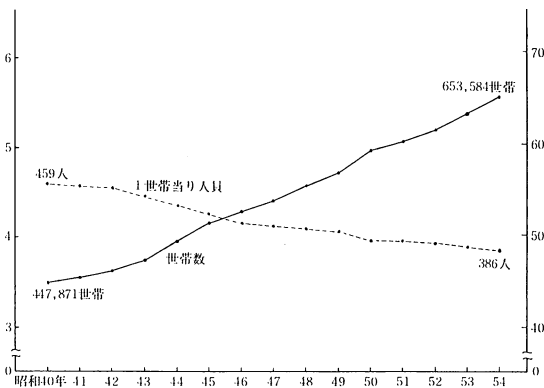
## 2. 世帯

### (1) 世帯数の推移 ～ 1世帯当り人員は年々減少～

昭和55年1月1日現在の世帯数は、653,584世帯で10年前の昭和45年(490,120世帯)の1.3倍に増加した。4年前の51年1月1日現在と比べてみると県全体では10.2%の増加で、これを地域別にみると県南21.0%、県北平坦7.7%、県西7.4%、鹿行5.6%、県北山間3.7%の順となって、県南地域は人口増と相俟って世帯の増加が著しい。

また、1世帯当り人員の推移では、大正末から昭和38年までは5人台であったのが、昭和39年～50年までは4人台となり、51年以降3人台に減って、年々減少してきている。

図一六 1世帯当り人員と世帯の推移



※ 昭和40・45・50年は同勢調査、その他は茨城県常住人口調査による。  
世帯数は、普通世帯と単世帯を加えた数である。

### (2) 昭和54年の世帯数 ～ 1世帯当り人員3.86人～

昭和55年1月1日現在の世帯数は、653,584世帯で、年間18,682世帯の増で2.9%増加した。

#### 世帯増加の内訳

日本人世帯の増加数 18,470(増54,838-減36,368)

外国人世帯の増加数 212

これは、前年の年間増加数17,279世帯を1,403世帯上回っている。

地域別にみると、世帯数の構成比は、県北平坦(32.7%)、県南(27.8%)、県西(18.4%)、県北山間(12.4%)、鹿行(8.7%)となっている。前年比では県南10,920世帯(6.4%)、県北平坦4,380世帯(2.1%)、県西2,017世帯(1.7%)、県北山間794世帯(1.0%)、鹿行571世帯(1.0%)とそれぞれ増加している。

また、1世帯当り人員は、県全体平均3.86人であるが、鹿行4.18人、県西は4.19人で県平均を上回っているが、県北山間、県南はいずれも3.84人であり県北平坦は最も少ない3.61人となっている。

(統計課・人口担当)

